

- えれば1コイン程度の報酬があっても良いのかも知れない。
- 将棋は、男性の方の参加も多く、認知症予防等にもつながる。
 - ボランティア活動において施設等が食事を出してくれたり、送迎をしてくれたり協力を得ている。
 - ボランティア団体内で、いろいろな仲間づきあいがあり有意義である。

障害者団体等

【団体概要】

【身体障害者福祉協会】

- 会員は50名程度で、活動に参加される方は40名程度。活動内容は旅行、ふれあいスポーツ大会、日帰り見学会、定例会などを実施。

【なごみ運営委員会】

- 精神障害の方のサポート活動として、精神障害者のつどいをきっかけに平成14年度に組織化。(医師、保健師、ボランティア7名で構成)。食事をつくる、ゲーム、パズル、農作業など月1回の活動を実施。対象の方は8名。何かあった時の連絡網を設置するなど見守りを行っている。

【障害者地域活動支援センター かもんみ〜】

- 障害者地域活動支援センターとして、生産、創作活動、交流活動等の機会の提供等を行っている。カフェタンポポハウス(福祉会館、きこりん)、菓子工房、公共施設の清掃の受託、季節の諸行事などをはじめ、本年10月から特定相談支援事業(相談・サービス利用計画作成等)を開始。登録者は25名程度。

【活動の促進等】

- 前回のやまびこ計画(10年前)から考えると、様々な事業が取り組まれてきている。
- 様々な事業が展開されているため、特に障害者団体等のネットワークが必要となっている。自立支援協議会は行政主導であり年1回程度などで、常に連携できるような取り組みが重要。
- 例えば、なごみの利用者をタンポポハウスで受け入れるなど、様々な連携が可能になると良い。
- ボランティアに参加する方を増やしていきたい。多摩学園との連携やふれあいスポーツ大会での勧誘なども考えられる。
- 通所している地域の方のグループホームをつくっていきたい。
- 大雪の時には、透析患者の方の把握ができなかったが、現在は民生・児童委員が把握している。

介護経験者の方(在宅)

【介護の状況】

- デイサービス、配食サービス等を利用しているが、ショートステイは本人が嫌がる。2地域居住での介護生活となっている。
- 認知症対応型グループホームでは、地域のボランティアの協力でお茶会などを行う「ハッピーメイクカフェ」を開催している。
- 歩行が困難になりつつあり、夜も何回も起こされる。

【今後の期待等】

- 地域包括支援センターの方は忙しいため、相談などは気が引ける。特に認知症等の介護をしている家族の精神的フォローが望まれる。
- 洗濯などの家事援助型サービスがあれば良い。
- 24時間型のホームヘルプサービスがあれば利用したい。